

①根っことり



←チューリップのプランターをひっくり返し、根っこを丁寧に取り除いていきます。去年の記憶から「根っこを取らないかん！」と張り切る子もいました。

②名人参上



←みんなが根っこを取り終えた頃、土作りの名人で同グループ・アルムの里の農園に勤務されている竹内さんが来園。良く育つ土作りの方法を教えて頂きました。

③栄養を！



←和泉保育園では、化学肥料を使用せず有機肥料を使用した栽培に努めています。今回は新しい土と牛ふん・米ぬかで作った“ぼかし”を混ぜ込みました。「くさ〜い」「牛のうんちよ！」と「栄養がたくさんあるんよ！」と経験がある年中・年長組からはたくさんの声が聞こえてきました。



和泉農園
始まりました

土作り

～おいしい夏野菜のために～

朝、外に出ると子どもたちがする日課は水やりです。その理由は色水遊びにたくさんの花びらを使うから。きれいな花を使わせてもらうために、感謝の気持ちを込めて毎朝水やりをすることが習慣づいています。

今日は春にきれいな花を咲かせ、色水遊びを楽しませてくれたチューリップの土の再生を行いました。まずはチューリップの球根をとり、土はブルーシートにひっくり返して根っことりから。この土には、GW明けに夏野菜を植える計画をしています。

⑤仕上げ



みんなが混ぜた後、踏み固まっている部分を仕上げで保育士がくわでほぐしていきます。このほぐしで本日の作業は終了。この状態で1週間から10日間寝かすと土の完成です！GW明けには、土をプランターに戻し、夏野菜の苗を、園全体で植えていきたいと思えます。



土作りを通して

魚は水の中で生活し、その他の生き物は土の上で生活し、土に作物を植え、それを食べ生きている。生き物は土と水がないと生きることができない。ということ学びました。話を聞く子どもたちも終始、真剣な表情をしていました。

そんな子どもたちを見て、私たち職員も同時に「命の循環」の意味を子どもたちに体感させることのできる、この環境に感謝した時間でした。

ここにもある！
こっちも！頼りになる
くま組ひたす



④混ぜる



新しい土、牛ふん・ぼかしをまいた土を3歳以上児、みんなで混ぜました。「下から上に」と教わると、「下から上に」と言いながら一生懸命に混ぜる子どもたち。



何だかフカフカになってきたね



植物や作物を育てる土を触ると手が黒くなったり、園庭の土と感触が違ったりと初めは抵抗がある子がいます。今日も初めは抵抗がある子がいましたが、周りで取り組む友だちの様子を見て、恐る恐る触り、あっというまに手を真っ黒にして楽しむ姿が見られました。

“ぼかし”が土と混ざって分からなくなるまで混ぜるんだって

